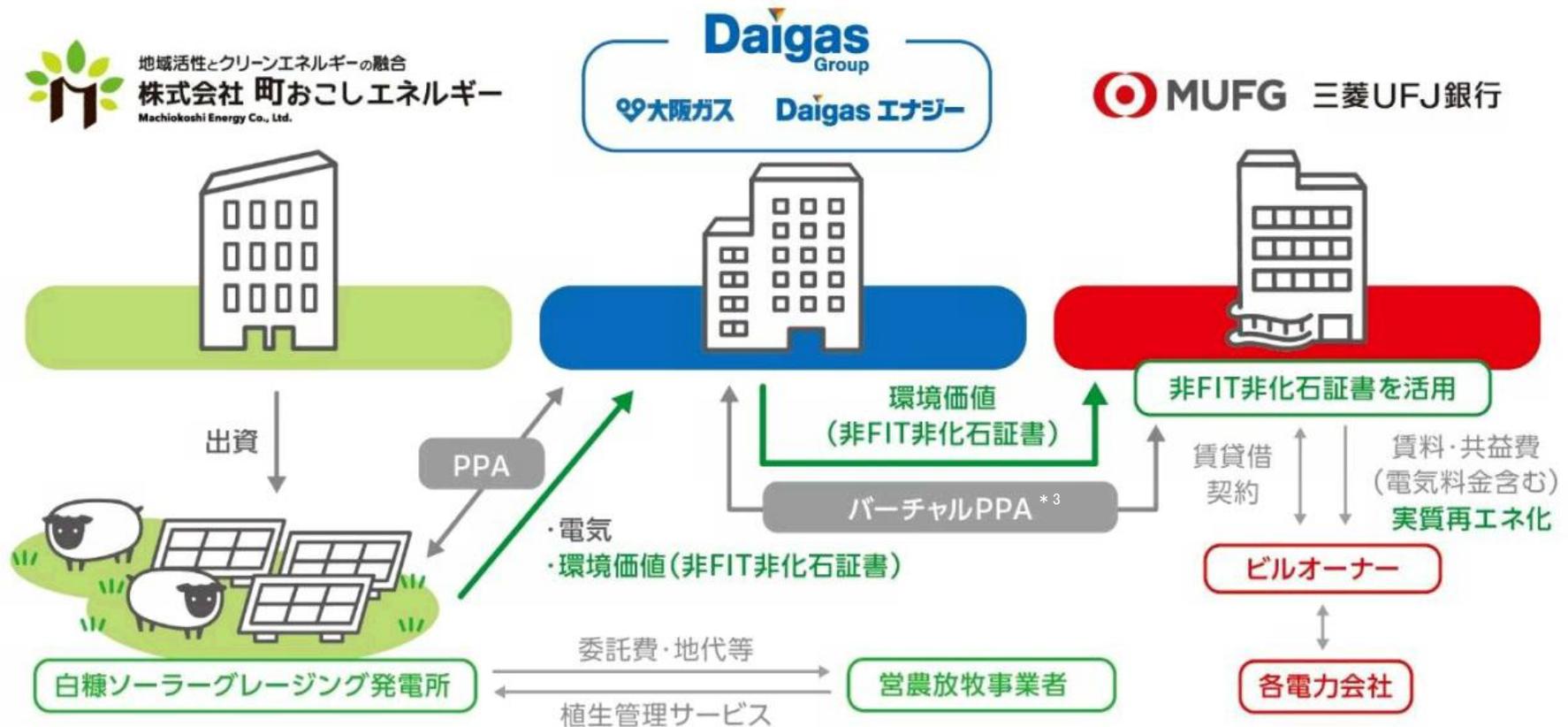


## 取り組み事例：営農放牧型太陽光発電システム（ソーラーグレーディング）への参画

MUFGは、株式会社町おこしエネルギー及び大阪ガス株式会社と「白糠ソーラーグレーディング\*1発電所」に係る基本合意書を締結し、本発電所に由来する環境価値（非FIT非化石証書\*2）を長期調達し、銀行が入居する賃貸ビルで使用する電力の実質再エネ化をめざします。本取り組みを通じ、我が国産業の更なる発展及び地球温暖化の防止・環境保全・循環型経済の確立という世界共通の課題解決に貢献していきます。

### 営農放牧型太陽光発電システム概要



\*1 ソーラーグレーディング：太陽光発電事業と営農放牧事業を組み合わせたもので、羊などの家畜による除草作業を含む植生管理方法を採用した太陽光発電事業

\*2 非FIT非化石証書：FIT（固定価格買い取り制度）の適用を受けない、再生可能エネルギーの環境価値に関する証書のこと

\*3 バーチャルPPA：太陽光発電などの再エネで発電した電力について、電力とその電力が持つ環境価値を切り離し、環境価値のみを売買する契約

Key Player Interview

## 太陽光と畜産を融合し、 地域にさらなるエネルギーを

「業務スーパー」展開の  
神戸物産創業者  
株式会社町おこしエネルギー  
代表取締役社長

沼田昭二 氏



### より持続可能なかたちで 再エネを普及させるため

再生可能エネルギー（以下、再エネ）の固定価格買取制度（FIT）がはじまって以降、全国各地でメガソーラーの建設が進みました。再エネの普及自体は望ましいことです。しかし一方で、開発による環境負荷は無視できない課題となっています。たとえば、開けた土地の少ない日本でソーラーパネルを設置するには、森林を伐採し、土地を造成しなければなりません。結果的に、そこにもともと存在していた植生は失われ、生物多様性も損なわれてしまいます。こうした乱開発を避けながら、どうすれば持続可能な方法で再エネの普及を促進できるのか。そこで私たちが提唱するのが「ソーラーグレイジング®（営農放牧型太陽光発電）」です。

### 環境への配慮と 収益性の向上を両立

ソーラーグレイジングは、太陽光発電事業と営農放牧事業を組み合わせた発電システムです。具体的には、耕作放棄地・遊休地となっている牧草地に太陽光パネルを設置し、ヒツジを放牧します。牧草地の地形を生かすことで、環境負荷は最小限に抑えられます。ヒツジが雑草を食べてくれるので、除草にかかるコストを抑制できることもメリットです。太陽光パネルが日除け・雨除けにもなるため、ヒツジにとってもストレスフリーな環境です。ヒツジの糞は天然の肥料となるため、土壌改善効果も期待できます。また太陽光発電事業で得た収益の一部は、畜産事業者へも還元する予定です。まさに一石二鳥にも三鳥にもなるソリューションなのです。

### KEYWORD ソーラーグレイジング

### 太陽光発電と畜産の融合が もたらすメリットとは？

太陽光発電所の敷地内にヒツジなどの家畜を放牧することで、家畜が雑草を食べることによる除草コストの削減が期待できるほか、家畜の糞による土壌改善効果や、畜産事業者の収入の安定化、アニマルウェルフェアの実現など、さまざまなメリットが見込まれている。

### 太陽光発電をもっと クリーンなエネルギーに

現在、私たちは北海道白糠町で、メガワット規模の営農放牧型太陽光発電所「白糠ソーラーグレイジング発電所」の開設に取り組んでいます。稼働予定日は2026年、予想年間発電量は約1908万kWhを見込んでいます。それに先立ち、2024年の7月には三菱UFJ銀行とバーチャルPPAも締結いたしました。おかげさまでソーラーグレイジングの注目度は一気に高まり、さまざまな企業からお問い合わせをいただいています。これを好機として、白糠町だけではなく、日本全国でソーラーグレイジング発電所を展開していきたいですね。太陽光を本当の意味でクリーンなエネルギーとしていくために、これからも挑戦を続けてまいります。



## 「業務スーパー」創業者が 再エネ事業に参入したワケ

今でこそエネルギー事業に専念していますが、私自身はもとも神戸物産の創業者として、食品小売店「業務スーパー」の事業拡大に人生の大半を費やしてきました。仕入れなどで海外を訪れることも度々あったのですが、そのなかで感じたのは日本という国の資源の乏しさです。エネルギーにしても食糧にしても、どうしても輸入に頼らざるを得ない状況を、肌で感じていました。将来を担う次世代のためにも、こうした課題をなんとか改善しておきたかった。そこで2016年、62歳にして立ち上げたのが、株式会社町おこしエネルギーです。現在は、太陽光発電事業だけではなく、地熱発電事業や、南国野菜・フルーツの地熱ハウス栽培事業、馬牧場事業、エビ・甲殻類の完全養殖事業などを多角的に展開しながら、エネルギー自給率と食糧自給率を同時に向上させる仕組みづくりのために、日々全国を奔走しています。

## 「次世代のために、果たすべき使命がある」

### 社会が抱える負債を 資産へと生まれ変わらせる

業務スーパー時代に培った経験や思考法は、エネルギー事業にも生かされています。たとえば2000年代には、規制緩和によって大型商業施設が増加し、その影響で多くの小規模店舗が撤退を余儀なくされました。しかし、私たちはそうして生まれた空き店舗に、あえて積極的に出店することを選びました。それは限られた面積を有効活用し、魅力的な売場をつくるノウハウがあったからです。この戦略が功を奏し、業務スーパーは飛躍的な成長を遂げます。ソーラーグレーディングも発想は同じです。人口減少に伴い、今後も耕作放棄地・遊休地は増加すると予想されます。ならば、その土地を活用しない手はありません。売電と畜産といったように複数の収入源を組み合わせれば、持続可能な事業運営は十分に可能となります。社会が抱える負債を資産へと変えていくこと。それこそが、今も昔も変わらない私のビジネスモデルです。



白糠ソーラーグレーディング発電所の完成イメージ。ヒツジはクローバーなどの雑草を自由に食べられるほか、太陽パネルの日陰で暑さをしのぐことができる。

### エネルギーの地産地消を さらに加速させるために

こうして自分自身のキャリアを振り返ってみて、改めて感じるのは、今は150年に一度あるかないかの大きな変化の時代だということ。それは至る所にビジネスチャンスが広がっているということでもあります。ぜひ日本のこれらを担う若者たちにも、もっとさまざまなことにトライしてほしいですね。もちろん、私たち町おこしエネルギーも、よりスピーディーに事業を展開していきます。フランチャイズなども活用しながら、既に一定の成果を挙げている地熱発電事業やソーラーグレーディング事業を一気に全国展開していきたいですね。さらには洋上風力発電や、蓄電池を用いた再エネ電力の販売、水素エネルギーの普及を見越した新規事業の創出なども視野に入れながら、エネルギーの地産地消を推し進めていきたいと考えています。それこそが私の夢、というよりも未来のために成し遂げるべき使命だと確信しています。



同社のグループ企業である小師馬商株式会社は、北海道和種の道産子をはじめ、馬の育成・繁殖に尽力。ここで得た畜産のノウハウと地域とのつながりが、ソーラーグレーディング事業にも生かされている。

### **見通しに関する注意事項**

本レポートには、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループおよびそのグループ会社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本レポートの作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。なお、本レポートにおける将来情報に関する記述は上記のとおり本レポートの作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有していません。また、本レポートに記載されている当グループ以外の企業等に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。